第 19 回佐保塾史跡めぐり

湖南三山めぐり

湖南三山とは、滋賀県湖南市に位置する「常楽寺」「長寿寺」「善水寺」です。三寺とも創建は奈良時代までさかのぼり、国宝を抱える紅葉の名所です

秋の快晴の元に、佐保会では、総勢４７名がバスで「善水寺」→「長寿寺」→「常楽寺」と巡りました。『近江のかくれ里』の著者である猪飼由利子様が同行、バリバリの滋賀弁で、エピソードを交えながら、明快に説明してくださいました。

まずは、奈良時代に元明天皇勅命により鎮護国家の道場として草創された起源をもつ「善水寺」。桧皮葺きの国宝の本堂が美しく、どーんと目に飛び込んできました。この中には本尊薬師如来をはじめ三十余躯の仏像が安置されており、近くで拝顔できました。桓武天皇がご病気の際、この寺の霊水を天皇に献上されたところ、御病が忽ち平癒されたと伝えられています。今でもその伝承の基となった霊水が境内に湧き出ています。このお水をいただいた佐保会員の皆さん、その後、お元気いかがでしょうか。

昼食の後、訪れたのは国宝に指定されている長寿寺。聖武天皇の指示により良弁が建立した勅願寺です。茅葺の風情ある山門の佇まいがその先にあるもみじの回廊を背景として私たちを誘い込んでいきます。黄色のもみじがきれいで、参道の脇では小さなお地蔵さんたちが歓迎してくれます。子宝・安産・長寿の祈願ができるお寺で、子育ての意味を再度考え直す時間がもてました。

最後に訪れた入母屋造り、桧皮葺きの国宝本堂を持つ常楽寺。阿星山の北麓にあり、良弁が開基した阿星寺五千坊の中心寺院であり、また、紫香楽宮の鬼門鎮護として栄えました。多くの魅力ある仏像も近くで拝顔できました。夕方ではありましたが、国宝の三重の塔を囲むどうだんつつじの赤が映えて、自然美と歴史的建造物の見事な調和が一幅の絵のようでもありました。

三寺ともに、説明をしていただいた方のお話が印象に残るものでした。善水寺では、茶色の法衣が周囲の雰囲気によくマッチして丁寧なお話でした。長寿寺では経験豊かな女性が漫談調でお話をしてくださり、聴衆の笑い声絶えない時間でした。常楽寺では聞き手が飽きないように、自分の立場を織り込みながら、でも、しっかり必要なことは伝えるという話っぷりでした。三人三様の話が、私たちの史跡巡りに親しみと深みをもたらしたことは確かです。

胸の目印、靴札など滋賀支部の方たちの心遣いに感心の声もありました。

近江商人の心得、売り手と買い手がともに満足し、また社会貢献もできるのがよい商売であるという「さんぽうよし」の県民性を心底に置きながら云うと、「史跡良し」「説明良し」「参加した皆さんの態度良し」の「さんぽうよし」が作り上げた史跡巡りでありました。